あやに愛しき（1956）

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
初公開日 1956/09/07

【解説】
上林暁の小説『病妻物語』をもとに新藤兼人が脚色した、宇野重吉の監督デビュー作。宇野の主宰する劇団民芸のメンバーが総出演している。
私小説作家の小早川武吉は妻の徳子と幼い二人の子供と暮らしていた。しかし長らく続く貧困生活と過労から、妻の徳子が精神を冒されてしまう。徳子が入院してしまい、武吉は子供二人と生活することになるが、武吉の妹の澄代が手伝いに上京してくれた。作家仲間の中沢や行きつけの飲み屋のおかみも協力してくれる。徳子は脳病院へ送られることになり、武吉は妻と自分のために文章を書き残すことにした。武吉は作家仲間の励ましもあり、妻の姿を文学として残すことを決意するのだった。

【クレジット】
監督 宇野重吉
製作 大塚和
原作 上林暁
脚本 新藤兼人
撮影 前田実
美術 丸茂孝
音楽 斎藤一郎
録音 安恵重遠
出演 田中絹代
信欣三
東野英治郎
小沢栄
菅井一郎
毛利充宏
高田幸子
奈良岡朋子
吉行和子
山田五十鈴

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.